

長浜への移住・定住を促進

◆ローカルフォトアカデミーで 長浜の魅力を発信・発信

347万円

写真を通して地域の魅力を発信し、移住を促進する取り組みです。写真家やカメラメーカーと協働し、まちの魅力を発信・発信する方法を学ぶ講座を実施しました。

◆長浜暮らしノート発刊

200万円

長浜の暮らしの魅力が詰まった冊子を4,100部作成。東京上野のKANNON HOUSEなどで配布し、定住促進につなげます。



◆東京都港区で就活・暮らしナビ

293万円

湖北地域の企業の発展や優秀な人材確保を目的とした市内企業の就職面接会や「これからの地方での働き方と湖北暮らしの楽しみ方」をテーマにしたトークイベントを開催しました。



子どもたちが健やかに育つまち

◆多子世帯保育料負担軽減 2億1,420万円

多子世帯の保育料について第2子を半額、第3子以降を無償にしました。

◆みんなで支える小学校給食費無料化 1億5,957万円

子育て世代の経済的負担を軽減し、子どもたちの成長を市民全体で支えます。子どもたちが、感謝する気持ちとみんなで支え合う協働の仕組みを学び理解することで、市の将来を担う人材の育成を図ります。

◆放課後児童クラブ 1億7,400万円

保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、放課後の遊びや生活の場を提供し、心身ともに健やかな子どもを育てます。



◆病児保育・産後ケア

2,197万円

安心して子どもを生み育てられる環境づくりのため、産後支援を必要とするお母さんを支える「産後ケア事業」と、病気にかかり集団保育が困難な子どもを一時的に保育して保護者の仕事と育児の両立を支援する「病児保育」事業を実施しました。



◆すこやか出産サポート

603万円

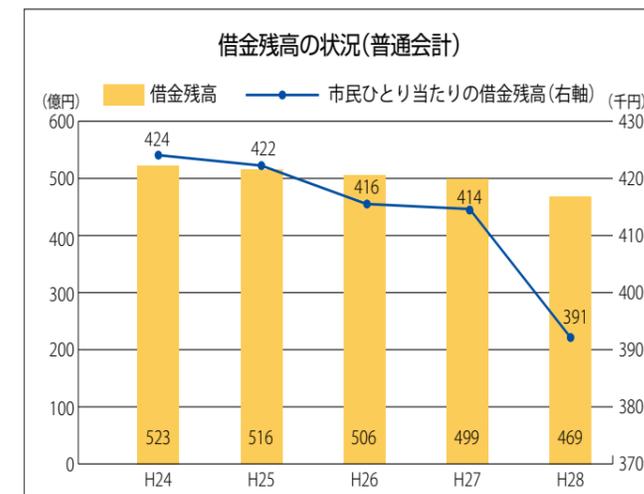
不妊症や不育症に悩んでいる夫婦に、治療に必要な費用の一部を補助しました。

借金の残高は減少しています

右のグラフは本市の借金を市民一人あたりの金額に計算し直し、その推移を示しています。本市の借金(市債)の平成28年度末残高は469億円で、市民一人あたり39万1千円の借金があるということになります。

この金額が問題のない範囲なのかどうかは、総務省が示している健全化判断比率(借金返済や借入額が多すぎないかなど5つの項目)で判断できます。本市の平成28年度決算の健全化判断比率は、すべての項目において基準をクリアしており、健全な財政運営に努めています。

長浜市の財政状況について詳しくは市ホームページをご覧ください。



平成28年度はこんなことに取り組みました



◆曳山まつりユネスコ無形文化遺産登録 2,943万円

祭りの時期以外にも、まちなかで横断幕やのぼりを掲げたり、外国人向け雑誌に長浜曳山祭の記事を寄稿するなど、国内外に魅力を発信しました。

また、地域の宝である曳山文化を発信するため、首都圏の観光展でしゃぎりの演奏などを実施しました。

◆「日本の祭り」開催 4,500万円

全国各地の多彩な祭りや踊りが長浜に集結。地元からは長浜曳山祭をはじめ下余呉の太鼓踊り、速水の八朔大祭の幡母衣武者行列などの団体が出場しました。

今後も祭りを守り、伝統や文化を保存・継承できるよう取り組みます。



◆首都圏で観音文化発信 4,112万円

平成26年に続いて2度目となる東京での観音展に、長浜から出陳された42体の仏像を一目見ようと3万人の来場者がありました。

また、地域の魅力の一つである観音文化について、東京上野の「びわ湖長浜KANNON HOUSE」を拠点に情報発信しています。



◆長浜市総合計画を策定しました 663万円

市民と行政と一緒に「新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち 長浜」を目指し、実現するためのまちづくりの指針を策定しました。

少子高齢化などのため、自治体経営が厳しくなることが予想されている中で、10年先、20年先を見据え「Challenge & Creation」を合言葉に未来志向のまちづくりに着手しています。

